



伊豆沼流域の休耕田に咲くサワオグルマ。当財団では、春の湿原を彩るこの草花を、水生植物園において増やしています。

**Vol.144**  
令和4年6月号

## 電気ショッカーボートで外来魚駆除中



今年も電気ショッカーボートによる外来魚（オオクチバス、ブルーギル等）の駆除を実施しています。捕獲される外来魚数は、10年前に比較して10分の1以下に減少しています。今年度も現時点で50cmを超えるオオクチバスなど19匹を捕獲しています。

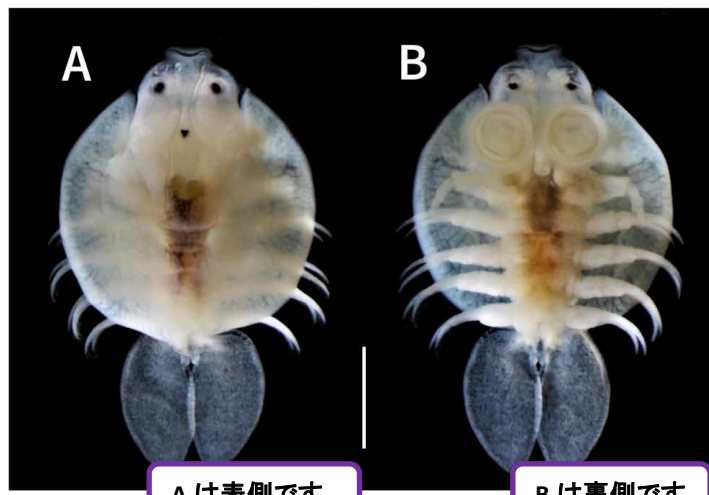
これまでの外来魚駆除により、伊豆沼・内沼では、モツゴ、タモロコ、フナ類やコイなどの幼魚の生息数が回復し、希少魚のゼニタナゴの繁殖活動も確認されるようになってきています。また、長年に亘る外来魚駆除活動は、昨年9月に「奇跡の沼」としてテレビ放映されました。



写真は今年最大サイズの55.7cmです。

## 日本初の甲殻類が伊豆沼・内沼で発見されました

魚類に寄生する甲殻類の一種で、中国に分布するモウコチョウが伊豆沼・内沼のオオクチバスやフナ類のエラから見つかりました。体長はおよそ4mmくらいの小さな甲殻類です。モウコチョウは、魚類に寄生して移入するため、中国から何らかの形で日本に入り、その後伊豆沼・内沼に移入したものと思われます。伊豆沼・内沼では流域のため池にオオクチバスが違法放流された例も確認されており、このような私的放流により移入したのかもしれませんが。この発見は、日本動物分類学会が発行する国際誌「Species Diversity」に、「Redescription of *Argulus mongolianus* (Crustacea: Branchiura: Argulidae), an ectoparasite of freshwater fishes in East Asia, with its first record from Japan.」と題して発表されました。



Aは表側です。

Bは裏側です。

# 久里浜中学校の体験活動

5月18日に横須賀市立久里浜中学校の皆様が来訪し、伊豆沼の環境や生物について学びました。

沼歩き体験では、胴長をはいて伊豆沼に入り、カラスガイなど沼の生き物を観察しました。また、水生植物の移植体験では、様々な湿性生物の住みかとなるオオミクリを水生植物園内の池に移植する作業を行いました。

伊豆沼・内沼に住む生物は、その多くがかつては久里浜中学校のある神奈川県でも確認されていました。今回の体験活動を通して、なぜこれらの生物が神奈川県から姿を消したのか、これ以上身の周りに住む生き物が減らないためにはどうしたらよいかを考える機会にして欲しいと思います。



沼歩き体験の様子



水生植物の移植体験の様子

## カラスガイ順調に成長しています



昨年5月は1cm程



1年で5cm程に成長

伊豆沼・内沼では、二枚貝のカラスガイが減少しています。カラスガイは、希少種であるタナゴ類の産卵母貝になるほか、沼の水質浄化にも貢献しています。

当財団では、10年程前からカラスガイの増殖に取り組んでおり、一昨年冬に人口養殖した幼貝約50個体を飼育中です。これらの幼貝も、あと少し成長すれば親として次の繁殖に使用できそうです。

## 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ ジュンサイ ～

ジュンサイは、流れが無く泥深い池沼に生育する浮葉植物です。山間部の水質の良い池沼に生える植物というイメージですが、実際には栽培しようと思えば庭に置かれた睡蓮鉢でも栽培することのできる適応力のある植物です。また、若い芽は寒天質のものに覆われており、食材として珍重されます。

かつて伊豆沼には、ジュンサイが多く生育し、名産品となっていました。しかし、乱獲などがたたり、現在の伊豆沼では野生のジュンサイを見ることはできません。当財団では、湖底に眠る種子からジュンサイを復活、ジュンサイの茂る伊豆沼の復元を目指しています。

